

酷暑の「納め太刀ウオーク2019」

2019年8月11日

観光協会では「白い行衣を身に纏い、巨大な太刀を担いで歩いて参詣」という、江戸時代さながらの伝統的な参詣スタイルを現代に再現した『納め太刀ウオーク』を、「山の日」の記念イベントとして、酷暑が続く今年も開催しました。

今更ながらですが、「納め太刀」とは、源頼朝が大山に太刀を奉納し、武運長久を祈願した故事に由来し、江戸時代に庶民が参詣する際に、真剣に変わり木太刀を奉納したことから始まった、大山だけに伝わる伝統行事です。



浮世絵にも描かれた「良弁滝」のある宿坊「亀井旅館」前の広場に集合した総勢 32名の参加者でスタートです。

それぞれの願いを記した割符を付けた木太刀を担ぎ、ゴッホの「タンギー爺さん」に描かれた大山や、古絵葉書に記された明治時代の街並みの解説を聞きながら、(旧参道)に入り徒歩で下社を目指します。



関東大震災後に大山川にかけられた清滝橋を渡りコマ参道へ歩みを進めます。

途中の老舗では、大山名物のコマや伽羅落についての由来を解説し、また宿坊「あさだ旅館」ではご主人のご厚意により、館内の神殿を特別に拝観させていただきました。



酷暑の女坂を登り、本殿前のミスト扇風機が涼風を奏でる大山寺に到着しました。

御本尊の不動明王を参拝いたしましたが、あまりの暑さに憤怒の表情が一層陰しく見えるのは私だけでしょうか？

ここから徒歩を諦めケーブルカーで下社へ向かわれた方も出ました。



大山寺から下社までが女坂のハイライトです。

石ころだらけの急坂を木太刀を担ぎ喘ぎあえぎ登ると、江戸の昔には掌に乗せた冷たい豆腐をすすりながら登ったという後世の逸話も、あながち作り話と思えなくなるのが不思議です。



移動手段の違いは兎も角とし、本日の参加者32名全員無事阿夫利神社下社に到着し、木太刀を奉納し正式参拝を済ませました。

その後、軽妙洒脱な解説でお馴染みの権禰宜に案内を願い、現存する7mを超える最大の木太刀などを見学し、白い行衣を羽織って記念撮影を行い解散しました。

追記:今年の「納め太刀ウオーク」の様子は、テレビ朝日の取材を受け、当日お昼のニュースで全国に放映されました。(動画は[こちら](#))

また奉納された割符は、10月2日～3日に開催される火祭薪能の際に焚き上げられます。